



# 夢への飛躍

金沢桜丘高校いしかわニュースーパーハイスクールだより



令和6年度 第1号  
編集：NSH推進課  
発行責任者：梅本 浩照

## 県内在住外国人との交流研修

7月22日(月)、2年人文科学コースの生徒を対象に、北陸先端科学技術大学院大学から15名の留学生をお招きし、交流研修を行いました。「外国語運用能力の向上を図りながら、異文化理解を深める」というのが研修のねらいです。2～6人のグループに外国人1・2名という充実した環境で、生徒たちは生きたコミュニケーションを満喫しました。

1セッション(40分)の前半15分では自己紹介を、後半25分では4月から取り組んでいる課題研究の概要を英語でプレゼンし、研究内容に関して助言や質問を受けました。「何がなんでも伝えよう」の気持ちで、桜高生の脳みそはフル回転。言葉がうまく出でずに詰まった時には助け舟を出してくれる留学生。留学生は、終始笑顔で目をしっかり合わせ、こちらが話しやすいような雰囲気をつくってくれ、研究をすすめるにあたって役立つフィードバックをたくさんくれました。英語のネイティブスピーカーではない方がほとんどにも関わらず、英語を流暢に話し、包容力を持って接してくれた留学生の姿勢からも、学ぶことが多くありましたね！課題研究は始まったばかりです。今後の研究へのモチベーションが一気に高まったのではないのでしょうか。みなさんが積極的な姿勢を見せ、いろんなことを感じ、学び取ってくれたことが、大変嬉しかったです。

**【自己紹介&フリートーク(15分) + 課題研究プレゼンテーション&質疑応答(25分)] × 2 sessions**





## ●生徒の声

- なかなか一度で聞き取ることができず、伝えたい単語が浮かんでこないという歯がゆさがあった。留学生の方がとても親切で、何度も言い直してもらえたり、部分的に日本語を使ってもらったりして、何度も助けられた。
- 相手が自分の言いたいことを理解してくれようとしたおかげでなんとか話すことができた。英語だけで会話するのはとても難しいなと感じたが、会話が繋がったときは面白かった。
- 外国人の方と交流して、普段総合の時間で思いつかないようなことも考えて言ってくれたので、いろいろな問題点やすべきことなどが分かりました。アンケートの仕方やインタビューをどうやってするのかなどはあまり決まっていなかったけど、アイデアを出してくれて、どうやってするのかなどがとても明確になりました。日本と外国ではやっぱり文化の違いもあるし、思っていることなども全然違うので、新しい気付きなどを与えてくれてよかったです。
- 留学生の方にわからないと言うことを恐れてはいけなとアドバイスしていただいて次の発表で自信を持って発表することができた。
- 喋ろうとしたことがうまく出てこなかったり、喋ろうとしても自信がなくて喋るのを諦めてしまったりしてしまったことが心残りです。
- 伝わらないときやわからないときに、言い換えたり言葉を変えて聞き直したりして、お互いにとって分かりやすいコミュニケーションを心がけることを学びました。
- 相手の方の発言をすぐに汲み取れなかったのが悔しかったけど、とてもいい経験になったし、何より楽しかったです。